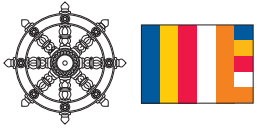


ZENBUTSU

全仏



No.
585

仏暦2555年12月
[2012年]



第1回都道府県仏教会・仏教団体代議員会議 2012年10月11日 埼玉会館

目次

- 「永遠の課題」は不滅である
武田 定光 師(全日本仏教会論説委員)2
- 仏教NGOネットワーク制作「寺院備災ガイドブック」のご紹介4
- 本会運営に多彩な意見と提言 一代議員会議を開催6
- 「救援基金」寄付者一覧7
- 真言宗豊山派第三十二世管長 総本山長谷寺第八十六世化主
加藤精一猯下 就任晋山祝賀会開催8
- 第59回 全日本仏教婦人連盟大会開催8

「永遠の課題」は不滅である

本会論説委員 武田 定光

はじめに

現代人のこころは寄る辺ない不安感に満ちている。景気低迷の中で東日本大震災を経験し、これを契機に様々な問題が起こった。しかしどの問題も確かな解決の糸口が見えてこない。そのような状況の中で宗教者に期待される役割とは何だろうか。それを思想家・吉本隆明の言葉である「緊急の課題」と「永遠の課題」を手がかりに考えてみたい。

「永遠の課題」とは

現代の諸問題には、必ず「緊急の課題」の側面と「永遠の課題」の側面がある。「緊急の課題」とは、即座に対応しなければならない問題で、制度改革、緊急援助、技術改革など即応性の範囲の問題である。これは課題が解けたかどうかで確かめられる範疇にあり、また公共に属する問題である。こ

の範疇で解かなければならないし、また解くことができる問題もたくさんある。それに対して「永遠の課題」とは、たとえ「緊急の課題」が解けたとしても、その後にも残る問題の範疇である。これは目で確かめることができない極めて個の内面に属した問題ということになる。

吉本は老人問題を取り上げ、国家が予算をつけて社会福祉施設をたくさんつくれば、社会問題としての老人問題は一応解決するだろうが、それでもなお残る問題があるといっている。それは老人個々の問題であり、個々の老人が経済的にも精神的にも自主的に自分たちの望んだ生活様式で生活できることだという。ただし、そこまで問題解決は「緊急の課題」の範疇であり、それでもまだ残る問題があるという。それは老人個々の内面深くにある問題である。ひとに代わってもらうことのできない

「老病死」としてあるいのちを、個々の老人がどう受けとめるかという課題であり、それが「永遠の課題」の範疇ということになる。

これはニーチェの有名な言葉だ。「人生についての独自のなぜに？」をもっていれば、ほとんどあらゆるいかにして？とも折り合いがつく。」（『偶像の黄昏』）ここでいう「いかにして (How to)」とは「緊急の課題」に属し、「なぜに (why)」は「永遠の課題」に属す。みすみす死んでしまうのに、なぜ生きるのか。その問いの答えをもっているものは、どのように生きていても、その生の苦渋に耐えようと、言い換えることができるだろうか。「永遠の課題」とは、生きる意味の問題である。

「死」の発見

私は、「意味の病」に罹っているのが人類だと考えている。それは何十万年も前に人類が「死」を発見したときに罹った病である。「死」を発見するまで、人類は死

ななかった。正確に言えば、死んでいたのだろうが、それを「死」として意識することはなかった。大脳が肥大化することで知性が発達し、人類は「死」を発見した。ちようどニュートンが引力を発見したように。もちろんニュートンが発見する以前から引力はあったに違いない。ただそれを「万有引力」として命名したに過ぎない。「死」を発見した人類は、肉親の死に涙を流し、やがてその死が自分自身にもやってくることを知った。この世を生きる価値がどれほど大きくても死がやってくればすべてが無意味になることを知った。積尊の出家の動機は、まさにみすみす死ぬのに生きることに意味があるのかというものだった。

この問いは、どの時代を生きる人類のこころの深層にも巣くっている。表面上は、政治、経済、文明、文化といった華やかな人類の叡知が展開しているようだが、深層には、いつも「永遠の課題」が横たわっているのだ。むしろ人類は、死を遠ざけ排除するために文

明を進化させてきたといつてもよい。みんながよりよく安心して暮らせる世の中をつくるということ、は、裏返せば「死」をどれだけ遠ざけるかということだ。医療技術を発達させ、経済活動を円滑にし、機械文明を進化させることで「老病死」を隠蔽してきたのではないか。そのベールを期せずしてはぎ取ってしまったのが東日本大震災ではないだろうか。震災は老、病、死という人間の生をむき出しにしてしまった。それは人類がもともと抱えてきた生の生々しい現実を白日のもとに晒してしまったということではないか。

生きる意味を問う

震災では多くの方が亡くなられた。とても悲しいことだ。生と死を分けたものは何か。それは「縁」である。だから震災がなくても、日本人は毎年百万人以上の方が亡くなっている。人類の「老病死」という現実は何万年前も、また何万年後も変わることはない。だから人類は死に向かって生き

る意味を問わざるをえない。ときに「生きる意味なんてあるもんか」と嘆きの声を聞くことがある。そのときには立ち止まり、一呼吸おいて「あなたにとっての生きる意味とは何ですか」と問い返す必要がある。その意味とは、自分の望み通りの意味であり、自分にとって好都合な将来のことである場合が多い。そう考えると、「生きる意味」を問うことが、自分にとって好都合な未来を貪りたいという貪欲を満たそうとしているだけではないかと思える。生きる意味を問うことは「貪りのこころ」でもある。それで望み通りの意味が得られないので「生きる意味なんてあるもんか」と嘆くのであろう。よく「人間には幸福になる権利がある」という発言を聞く。誰がそのような権利を保証したのか。それは実現することのない夢を語っているのではないか。現実には実現することのない餌を前にぶら下げて苦役に耐え自分を叱咤しているだけではないのか。そもそも誕生したということが死の原因をつ

くったことなのだから。死を逃れるには誕生しないということしか方法がないのだ。「生きる意味を問う」ということが貪欲を満たすためであれば、それは、「意味の病」でもある。ただこの病を避けて通れる人間もない。むしろ病を病として引き受け、十分に「ほんとう」の意味を求めて格闘しなければならぬ。先輩の仏者たちは、みんなこの道を通っていったのだと思う。

さいごに

宗教者にとって「緊急の課題」は縁に従って処していくべき問題であり、「永遠の課題」こそが「緊急の課題」なのだと思えるべきだろう。それは宗教者が人々に向かつて「永遠の課題」の答えを提示するというのではない。「永遠の課題」への応答は一人一人の生活の中から、一人一人が獲得するものである。決して、ひとに与えられた答えは自分の答えにはならない。むしろ宗教者にとって「永遠の課題」に真向かいになってい

る姿勢だけが人々に真の問題の在り処を暗示するのではないか。また人々が宗教者へ真に期待するものも、そのことではないかと思える。同伴される優しさではなく、ひとり生きていける存在への勇気ではないか。現代は宗教への期待感を失った時代かもしれない。しかし時代の底を流れる「永遠の課題」は、それこそ永遠に不滅である。

武田 定光



一九五四年東京生まれ。大谷大文学部博士課程修了。江東区・真宗大谷派因速寺住職。元親鸞仏教センター嘱託研究員。池袋親鸞講座講師。NHK文化センター・町田・川越教室講師。(著書)『新しい親鸞』『歎異抄の深淵』『逆説の親鸞』、雲母書房)

仏教NGOネットワーク制作 「寺院備災ガイドブック」のご紹介

東日本大震災では百カ寺 近い寺院が避難所に

仏教NGOネットワーク（以下BNN）では、全日本仏教会と仏教諸団体などにご協力いただき、「寺院備災ガイドブック」を制作させていただくこととなりました。

東日本大震災では東北を中心に百カ寺近い寺院が、地域の被災者を受け入れ、公設・私設の避難所となり、仏教が長い歴史の中で説き続けてきた「いのち」と「人と人が助け合うこと」の大切さを人々に示す場所となりました。

教訓や災害への 備えを一冊の冊子に

その避難所となった寺院を対象にこの夏、BNNでは聴き取り調査を行い、「備えておけばよかつた物」「避難所運営で苦労したこ

と」「全国の寺院へ伝えたいこと」など、たいへん貴重な教訓をお寄せいただきました。その内容を全国の寺院にお伝えすると共に、地震・津波以外の様々な災害（風水害・火山噴火災害・原発事故災害等）への備災知識や、緊急医療処置法、寺院避難所運営マニュアルなどを加えて、五十ページほどのガイドブックにまとめます。



「防災寺子屋」の様子

「防災寺子屋」を全国へ

単なる知識やマニュアル、物資の備蓄だけでは災害への備えは十分ではありません。地域防災には寺院も含めた地域の人と人の繋がりと日頃からの協力関係が欠かせません。そして、地域の災害への備えは、行政だけに任せるのではなく、寺院も含めた地域の総力を挙げて取り組む問題です。その要となり地域のひとと人を繋ぐ役割を果たせるのは、地域と人々を見守り続けてきた寺院なのではないでしょうか。

BNNでは東日本大震災以前から、BNN加盟のNGO団体と協力して全国の寺院にて地域の人々も巻き込んだ「防災寺子屋」や「防災町歩き」を開催してきました。そうした中、昨年三月十一日に東日本大震災が発生し、BNN加盟団体の多くが被災地での支援活動を行いました。そこで私たちは、被災地において避難所やボランティアの活動拠点として寺院を開放

して多くの命を救い、守る寺院の姿と、全国から駆け付けける仏教系ボランティア団体の活躍を目の当たりにし、災害時における寺院の重要性と仏教系ボランティア団体の可能性を感じました。しかし、全国の多くの寺院と僧侶、そして仏教諸団体に災害時における経験とノウハウが不足しているのも事実です。さらに、日常からの地域や行政、民間ボランティア団体とのネットワークの構築もこれからの課題です。この問題に取り組むためにBNNでは今回、全日本仏教会にもご協力をいただき、「寺院備災ガイドブック」の制作をすすめています。来年以降は、このガイドブックを活用しての地域と寺院が協力して地域防災に取り組む「防災・備災セミナー」や、地域の子どもたちも対象にした「防災寺子屋・防災町歩き」そして現在も東北の被災地で復興支援活動を継続するBNN加盟のNGO団体を訪問する「被災地活動視察・研修」などの開催を全国の寺院や地域仏教会などへ呼び掛けていく予定です。

一九九五年の阪神・淡路大震災から東日本大震災に見舞われた二〇一一年までの十七年の間に震度六弱以上の地震は全国で三十九回起きています。まさにこの国は今、地震活動期の只中にあり、いつどこで大地震が起こっても不思議ではありません。更に近年は毎年のように大規模な風水害が発生し、また火山噴火や原発事故に対する備えも「想定外」とは言えません。「災害は忘れた頃にやってくる。皆さまの街にいつかやってくる」

災害は忘れた頃にやってくる



「防災町歩き」の様子

「その日」に、このガイドブックの内容が活かされることを願うと共に、「いのち」と「人と人が助け合うこと」の大切さを説き続けてきた寺院が、地域防災をきっかけに、改めて地域の人と人を繋ぐ

要となることを願います。
 (仏教NGOネットワーク「寺院備災ガイドブック」制作委員会)
 ※ガイドブック完成の折りには本誌でご紹介させていただきます。

寺院備災ガイドブック
 掲載内容 (予定)

- ◆東日本大震災にて避難所となった寺院への聞き取り結果
 - ・備えていて良かったもの、備えておけば良かったもの
 - ・避難所運営で苦労したこと
 - ・子ども、高齢者、障がい者などへの配慮
 - ・避難所提供以外の様々な活動
 - ・全国の寺院へ伝えたい教訓や提言
- ◆様々な災害に備える
 - ・地震災害対策 (津波・大規模火災)
 - ・風水害対策
 - ・火山噴火対策
 - ・原発事故対策
 - ・日本の原子力発電所と火山マップ
 - ・BNN「防災寺子屋」のすすめ
- ◆緊急時の医療処置方法
 - ・災害時医療ニーズの変遷と備えるべき薬と医療品
 - 「被災者の心のケア」「開放創 (切り

傷など)」「出血」「骨折」「やけど」「頭部打撲」「けいれん」「溺水」「呼吸困難」「エコノミークラス症候群」「低体温」「発熱」

- ◆避難所運営マニュアル
 - ・避難所とは
 - ・避難所の時間経過とその対応
 - ・避難所に必要な設備や部屋
 - ・代表者、各担当者を決める (運営組織作り)
 - ・各担当の具体的な役割と注意点
 - ・避難所で必要な連絡先一覧
 - (資料1) 避難者名簿ひな形
 - (資料2) 避難所運営本部組織図
 - (資料3) 避難所での基本ルール
 - (資料4) 避難所でのトイレ対応マニュアル
- ◆寺院が備えるべき備蓄チェックリスト

etc.

※制作中につき、内容が変更になることがあります。

BNNとは

仏教NGOネットワーク (BNN) は、国内を含む世界の紛争や貧困、環境問題などの解決に取り組む仏教系NGOと、それを支援する仏教系団体によって構成されたネットワーク組織です。現在、仏教系NGOやボランティア組織など十五団体の活動会員と、それを支援する多くの仏教系団体や寺院、個人などに支援会員として加盟いただいております。(※公益財団法人全日本仏教会も支援会員としてネットワークに参加しております) BNNの主な活動は、加盟団体間の情報や経験の共有、仏教者の社会活動を広く世間へ知ってもらうための広報活動、社会活動に取り組む若い僧侶を増やすための人材育成、そして、国内外の災害時における緊急救援活動と、国内の寺院への地域防災の啓発活動です。

本会運営に多彩な意見と提言——代議員会議を開催

本会が公益財団法人へ移行して初めて、宗派代議員会議及び都道府県仏教会・仏教団体代議員会議を、それぞれ開催した。

代議員会議は、本会が公益財団法人への移行に伴う、理事・評議員の定数削減と参与会の廃止による、本会運営参画の場の減少を補うべく新設された機関で、本年六月二十日開催の評議員会で正式に承認され、定款に記載された。

構成は、宗派代議員会議においては、評議員選出の十宗派を除く加盟宗派より選出のあった者各一名、都道府県仏教会・仏教団体代議員会議においては、加盟都道府県仏教会・仏教団体より選出のあった者各一名からなる。

- (一) 事業推進施策
- (二) 事業内容精査
- (三) 意見集約と提言
- (四) その他理事会に具申する必要がある事項

を検討・決議し、出席した担当理事を通じて、理事会に意見を具申することができる。本会において

は評議員会・理事会に次ぐ重要な位置づけがなされている。

今後、各代議員会議が充実することによって、本会運営の活性化につながることを期待される。

宗派代議員会議

二〇一二年十月三日午後二時より、法華宗（本門流）宗務院会議室において、開催した。

出席代議員は以下の通り

- 守山雄順（聖観音宗）、草野貞男（孝道教団）、一宮良範（念法真教）、福井孝範（新義真言宗）、糟谷真教（真言宗国分寺派）、井上真英（真言宗須磨寺派）、岡田康秀（真言三寶宗）、中江慈光（融通念佛宗）、木村信安（黄檗宗）、金井孝顕（法華宗（本門流））、川手誠誓（本門佛立宗）、狭川普文（華嚴宗）、西山明彦（律宗）、座間光覚（天台寺門宗・代理）、高木貞歡（時宗・代理）、山岸観深（法華宗陣門流・代理）

（順不同 敬称略）

関崎事務総長開会の辞、三帰依文唱和、小林理事長挨拶、委嘱状伝達（代表・岡田康秀代議員）、出席代議員・事務総局職員による自己紹介、森田俊朗担当理事挨拶の順に進行。互選により議長に守山雄順代議員、副議長に中江慈光代議員を選出した。議題について各代議員より活発な意見が出された。それらをまとめて、森田担当理事が理事会に報告することになり、午後四時三十分閉会した。

都道府県仏教会・仏教団体代議員会議

二〇一二年十月十一日午後二時より、埼佛会館ホールにおいて開催した。

出席代議員は以下の通り

- 丹治宥勝（福島県仏教会）、松本一浩（茨城県仏教会）、木村盛雄（財団法人埼玉県佛教会）、新倉典生（東京都仏教連合会）、井澤孝一（神奈川県仏教会）、加藤朝雄（新潟県仏教会）、齋藤神悟（山梨県仏教会）、中嶋英見（長野県仏教会）、伊藤正導（愛知県仏教会）、前阪良憲（滋賀県仏教会）、森快隆（大阪府佛教会）、篠原法傳（兵

（順不同 敬称略）

庫県仏教会）、柳瀬智明（和歌山県仏教会）、疋田哲寿（鳥取県仏教連合会）、岡部義典（社団法人徳島県仏教会）、御木徳久（愛媛県仏教会）、黒木報源（宮崎県仏教連合会）、末廣久美（社団法人全日本仏教婦人連盟）、木島健治（財団法人仏教伝道協会）、逸見道郎（公益財団法人国際仏教興隆協会）、須藤大恵（東京ブレイストクラブ）、村山博雅（全日本仏教青年会）、白川淳敬（一般社団法人仏教情報センター）、水谷彰道（静岡県仏教会・代理）、中山静磨（日本仏教鑽仰会・代理）

関崎事務総長開会の辞、三帰依文唱和、小林理事長挨拶、委嘱状伝達（代表・柳瀬智明代議員）、出席代議員・事務総局職員による自己紹介、杉山令憲担当理事挨拶、萩野映明全日本仏教会副会長挨拶の順に進行。互選により議長に新倉典生代議員、副議長に逸見道郎代議員を選出した。議題について各代議員より活発な意見が出された。それらをまとめて、杉山担当理事が理事会に報告することになり、午後四時四十五分閉会した。

事務総局録事

十月(十六日～三十一日)

- 十六日▼日本宗教連盟主催第六回宗教と生命倫理シンポジウム参加(國学院大学常盤松ホール)
- ▼テイケイヘンデルアート黒塚氏来局
- 十七日▼同宗連主催第二十七回狭山現地学習会参加(～十八日)局内会議
- ▼D A T新藤氏来局
- 十九日▼日本宗教連盟臨時幹事会出席
- ▼A B S来局
- 二十二日▼平成二十四年度宗教学実務研修会講師(～二十三日)(石川県)
- ▼曹洞宗宗議会出席(曹洞宗宗務庁)
- ▼大和証券佐藤氏・トーマツ水上氏・堤氏来局
- 二十三日▼第四十二回全日本仏教徒会議高野山大会第一回実行委員会出席(高野山真言宗宗務所)
- ▼劇団わらび座今村氏来局
- ▼朝日新聞社宮本氏来局
- ▼オメガコム五十嵐氏来局
- 二十四日▼全日本仏教婦人連盟大会参加(グランドプリンスホテル高輪)
- 二十五日▼平成二十四年度宗教学実務研修会講師(～二十

六日(新潟県)

- ▼本会事業説明(真言宗智山派宗務庁)
- 二十六日▼朝鮮半島旧民間徴用者遺骨返還問題連絡協議会開催(明照会館第二会議室)
- 二十九日▼関西支局会議出席(真宗大谷派宗務所)
- ▼全葬連事務局長松本氏来局
- ▼D A T新藤氏来局
- 三十日▼文化庁宗務課主催被災宗教法人現地視察同行(～三十一日)(宮城県)
- ▼第三回W F B日本センター運営委員会開催(事務総局会議室)
- ▼「狭山事件」早期再審を求める集会・デモ行進参加(日比谷公園)

十一月(一日～十五日)

- 一日▼第三回総務財政審議会開催(事務総局会議室)
- ▼加盟団体顧問弁護士連絡会会場視察(浅草寺)
- 二日▼A B S来局
- ▼野村證券塚寄氏来局
- 五日▼大陸旅遊谷奥氏・田村氏来局
- 六日▼局内会議
- 七日▼真言宗豊山派管長就任化主晋山祝賀会出席(ウエスティン都ホテル京都)
- ▼第三十四回埼玉県佛教徒大会出席(所沢市民文化センター)
- 九日▼全日本仏教婦人連盟理事長宅訪問(天王寺)

▼第四十二回全日本仏教徒会議

- 高野山大会企画式典部会議出席(難波御堂筋ホール)
- 十日▼築地本願寺本堂修復完成祝賀行事・祝賀会出席(築地本願寺・グランドプリンスホテル新高輪)
- ▼宗教学会シンポジウム参加(京都大学)
- 十二日▼オメガコム五十嵐氏来局

「救援基金」寄付者一覧

- (二〇一二年四月十七日～十一月一日)
- 滋賀県仏教会
- 羅府仏教各宗連合会
- 栗沢仏教会(北海道)
- 真言宗御室派青年教師会
- 小千谷市仏教会(新潟県)
- 信濃三十三番札所連合会
- 妙見宗 本瀧寺
- 全日本仏教会主催シンポジウム募金
- 益田市仏教会(島根県)
- 中原区仏教会(神奈川県)
- (財)仏教伝道協会
- 刈谷市仏教会(愛知県)
- 馬野将幸
- 齊藤清美

合計二百七万一千四百一十一円

ご支援、誠に有難うございました。

(順不同・敬称略)

十三日▼年末調整等説明会参加(メ

- ルパルクホール)
- ▼テイケイヘンデルアート黒塚氏来局
- ▼全インド僧伽協会サダナンダ会長来局
- 十四日▼第二回指定寄附金制度説明会開催(明照会館会議室)
- 十五日▼局内会議

本会では国内外における災害救援や人道的支援に対し、緊急且つ迅速な対応をすべく「救援基金」を常時開設しております。

今後も状況を見据えた上、現地の被災者救援活動を支援してまいります。

つきましては、加盟団体、各ご寺院、檀信徒・門徒のみなさま、宗派を超えて温かい浄財をお寄せいただければ幸いです。

救援基金は左記口座までお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

【郵便振替口座】

口座番号 001101-9-704834

口座名義人 全日本仏教会救援基金

お問い合わせ

公益財団法人 全日本仏教会 財務部
TEL...03-3437-9275
FAX...03-3437-3260

真言宗豊山派第三十二世管長 総本山長谷寺第八十六世化主 加藤精一猯下就任晋山祝賀会開催

2012年11月7日午前9時より、真言宗豊山派総本山長谷寺(奈良県桜井市)において加藤精一猯下晋山式が執り行われた。

式には集議、菩提院結衆を始め、総本山長谷寺評議員、宗会議員、地元関係者が参集した。閉式後、京都市内のホテルに場所を移し、盛大な祝賀会が催された。

この祝賀会には、半田孝淳本会会長はじめ真言宗各派総大本山会それぞれの代表者、宗内公職者を中心に政界、企業、マスコミ関係者等約550名が出席。坂井智宏真言宗豊山派宗務総長の挨拶により開会した。

来賓として出席した半田会長は、真言宗の宗祖である弘法大師研究の第一人者である加藤精一猯下に対して、「弘法大師がお説きになられた四恩の精神で、多くの方に心のあかりをともしついでいただきたい」と真言宗豊山派の標語を交えながら、「今後とも加藤猯下のご研究の成果を私達仏教会の為に役立てて欲しいが、まずは体調に留意し法務を遂行して欲しい。」と、新猯下をねぎらいながらも力強い口調で祝辞を述べられ、会場は大きな拍手に包まれた。



第59回 全日本仏教婦人連盟大会開催

2012年10月24日午前11時より標記大会(以下:本大会)が、グランドプリンスホテル高輪・プリンスルームにて開催され、本会より関崎幸孝事務総長が出席し、挨拶を述べた。本大会は大谷貴代子会長・島田喜久副会長の追悼会を営み、それをもって第59回大会としている。

全日本仏教婦人連盟名誉会長・善光寺大本願法主の鷹司誓玉台下を導師、全日本仏教尼僧法団有志一同を式衆として追悼法要が勤められ、読経中に来賓・会員が献花を行なった。その後、鷹司台下より御垂示があり、続いて道明寺山主の六條照瑞上人から全仏婦信条が読み上げられ、会場全員で復唱した。

社団法人 全日本仏教婦人連盟とは

本会加盟団体。仏教に賛同している団体を組織し、社会福祉事業に貢献する事を目的に、1954年10月6日に設立された仏教婦人団体。「女性の立場」から社会および家庭生活の中に「仏教精神」をつちかい、慈悲の心、人の気持ちのわかる人間を育成するとともに、さまざまな社会福祉事業に取り組んでいる。現在、公益社団法人へ移行するため手続を進めている。



挨拶を述べる関崎幸孝事務総長